

南大東島の区長会

台風情報で出てくる南大東島。沖縄本島から東に400kmの距離にあります。沖縄本島との交通手段は、1日2便の飛行機と5日に1回程度の船便だけです。高等学校は存在せず、高校生は那覇に下宿。診療所はありますが、急患はヘリコプターで那覇に輸送。マグロは安い、粉石けんは高い。輸送賃がかさむがゆえに、本土とは異なる物価体系ができています。便利とはいえない島です。

産業の中心は砂糖。サトウキビの栽培と精製。大規模な農業が行われ、かつては沖縄県唯一の鉄路がサトウキビを運んでいました。

島の歴史は、砂糖産業の開拓史です。明治時代の中頃に玉置翁が開拓事業を開始。八丈島や沖縄から人が移り住み、現在は1,400人ほどの人が暮らす、八丈文化と沖縄文化が融合した島。江戸相撲と沖縄相撲が併存したり、八丈と沖縄の方言が用いられています。興味深い島です。

初めて島を訪問したとき、交換した名刺のなかに「元区長」という肩書きが記されたものがありました。それ以来、区長が気になるようになりました。

区長制度は全国にあるようです。私有財産制度を構築した明治期に、私有になじまない



▲サトウキビとハーベスター

共有財産を財産区とした結果、その代表者が区長と呼ばれるようになったようです。漁業権、入会権、温泉権、水利権などが財産区単位で管理されるようです。区長は財産区の代表者ですから、地域で信用のある人が選ばれ、寄り合いを区長がまとめてきたようです。集落の自治の要石になる存在と思えます。

南大東島の区長は、村役場の嘱託職員という身分です。仕事は村民の要望を役場に伝えること、役場の情報を村民に伝えること。このため、集落では月1回の頻度で懇親会がもたれ、役場では同じ頻度で定例会議がもたれます。筆者がオブザーブした定例会議では、役場が進める工事に関する細かい要望が情報交換されていました。

南大東島には村会議員もいます。しかし、それは集落の単位で選出されるものではありません。集落単位の情報は区長のルートでやりとりされます。決定のための仕組みと、情報交換のための仕組みの2つを併存させる柔構造組織として区長制度を見えています。

(MBO実践支援センター代表)

中嶋哲夫の

「人事も歩けば」

